



■ふりかえりと発表：児童

6つのグループに分かれ、利用者にもそれぞれのグループに入ってもらい、一緒にふりかえりを行いました。

□障がい者と一緒にゲームや模様作りをしてみようだったか？

- ・一番利用者との交流が楽しかった。
- ・普段できない貴重な体験が出来た。
- ・障がい者と、とても楽しく過ごせたと全部楽しかった。

□講話

- ・もっと手話などを勉強したい。
- ・指文字と手話が違うということを知った。
- ・親の子どもに対する愛情を感じた。

□今日の体験をふまえて、今後もっと知りたいこと、頑張りたいことは？

- ・手話で話しをしてみたい。
- ・障がい者の手伝いをしたい。
- ・「今、自分ができること」という目標を立ててがんばることの大切さを感じた。

■事後アンケートから抜粋

「児童の声」

- ・障がい者に対する気持ち、接し方が変わった。
- ・障がい者は自分なりに頑張っていて、すごいなと思った。
- ・体の不自由な方であっても、全てが楽しかった。

「保護者の声」

- ・親と一緒に参加であっても、あえてグループは一緒でなかったら子ども自身の力がみえた。
- ・最初は気持ちが通じるか不安もあったが、本当に皆優しくとても楽しく過ごせた。
- ・子どもに体験させたいと思っていたが、自分がとても勉強になった。

■まとめ

障がい者との出会いによって、障がい者は何もできないのではないかと心の壁（偏見）を消し去ってくれたと思います。人は誰での得意なことがあれば不得意なこともあります。

しかし、お互いに思いやりの心を持って支え合って生きていけば、誰もが暮らしやすい社会になっていくことを今回の体験で学んだように思います。

感じて、感心を持つ大切さ
自分たちができること



平成29年度 障がい者とのハンカチ作り

ふれあい体験講座

主催：真岡市社会福祉協議会

会場：真岡さくら作業所、地域活動支援センター

2017. 11. 5 sun.

- 08:30 受付
- 09:00 開会・オリエンテーション
- 09:10 自己紹介
- 09:20 真岡さくら作業所、地域活動支援センター紹介
- 09:30 製作活動、施設見学
- 11:30 昼食休憩

- 12:15 障がい者とのゲーム
- 13:30 講話、ふりかえり、発表
- 14:15 まとめ
- 14:30 閉会

■参加者 34名（内児童22人）

『ともに生きる力』を育む

■事業概要とねらい

障がい者だから、何もできない、わからないのではないかと。もしかしたら、そのような先入観をもってしまいかも知れません。今回の講座は、直接ご本人達に会い、障がいに対する理解を深め、実際はどうか？そして、私たちには何が出来るのかを考えるきっかけづくりとして、このふれあい体験講座を実施しました。障がい者と一緒に製作活動やゲームなどを行ったことで、言葉では伝えきれないことを知っていただけたと思います。

■出会い

真岡さくら作業所と地域活動支援センターに通う利用者10名を講師として招きました。はじめに、参加者同士で自己紹介を行いました。その後利用者から施設での日常の様子や作業内容などについて説明をしていただきました。

■製作活動（手ぬぐい・ハンカチ作り体験）

日頃、施設で行っている染色作業の工程の一部である模様作りを行いました。参加者は思い思いにビー玉やおはじき、ペットボトルのキャップなどを使用し、オリジナルの手ぬぐいやハンカチを製作しました。障がい者だから、何もできないわけではありません。人それぞれ模様づくりが得意な人、そうではない人もいます。それが個性です。



この講座の体験を通して、障がいのある方への理解と認識を深め、日常生活において地域の一員として自分に何が出来るかを考える機会を提供し、障がいのある人を含めた社会の様々な人と「ともに生きる力」を育むことを目的とし実施しました。

■模様づくり完成！！

どんな模様になるのか、色を染めたあとの完成が待ち遠しいですね。



輪ゴムのとめ方ひとつでも模様に違いが出ます！

■施設等の見学

敷地内を見学し、畑で高校生と一緒にさつまいもやじゃがいもを作っていることや、施設内で自動車部品の加工や箱折などを行っていることを教えていただきました。



■昼食

グループごとに昼食を食べて、交流しました。



■講話

肢体不自由児父母の会の会長北向弘子さんから、自分の体験をとおして、障がいや障がい者について、話をさせていただきました。



■ワッシャー入れゲーム

「ワッシャー」という車に使われている部品を10分間で何個できるかを競うゲームを行いました。利用者は毎日、ワッシャー入れの作業を行っており、それが賃金となっています。単純作業に思えますが、欠品を出さないようにするためには細心の注意が必要です。

